資料５

災害教訓の普及啓発用小冊子「体験集（仮称）」編の作成について

災害教訓の普及方策に関する検討分科会

【経緯】
「第 14 回災害教訓の継承に関する専門調査会」において、以下のような意見が提出されたところ。

○『災害教訓を一般の人たちに広めていくのに、その災害に出くわした人たちに、どんなことがあって、どんな思いをしたかということが具体的に描写されて、臨場感を持たせた形で伝えていくことが一番分かりやすく、心の奥底に届いていく。福井地震の報告書にある体験談が非常に心に残る。』

○『小学生や中学生などにも読んでもらうために、それぞれの災害の体験者たちの生の言葉を中心にまとめた一冊がある良いと思う。』

＊以前の専門委員会においても、災害の被害者等の体験談を読みやすい形で整理することが大切であるという意見があったところ。

これらの意見を受けて、伊藤座長、北原委員、平野委員、清水委員を中心に検討を行い、以下の「体験集（仮称）」の作成を行うこととなった。

【目的】
災害に関する体験談は、年齢を問わず、広く国民の心に届くことから、災害教訓の普及啓発を行うため体験集は効果的であり、学校教育での利用をも想定し、災害被害者等の体験談を集めた冊子を作成する。作成した冊子は普及啓発小冊子の「体験集（仮称）」編と位置付ける。

資料５

【作成方法と内容（案）】

① これまでに取りまとめられた 25 冊の報告書などから体験談をピックアップ。

・ 各報告書の主査等（小冊子の執筆者）に、それぞれの報告書に「体験集」に掲載すべき体験談があるか照会。なお、報告書以外にも、「体験集」に掲載すべき体験談があれば、教えていただく。

・ 特に津波については、2 つの報告書だけでは不十分であり、その 2 つ以外からの体験談も盛り込む。

・ 関東大震災については、106 歳でご健在の被災者がいるので直接お話を聞く。

・ 主査等から提案のあった体験談について、伊藤座長、北原委員、平野委員、清水委員を中心に 10 程度に絞込みを行う。

②10 の体験談について、北原委員、平野委員、清水委員、伊藤座長が中心となって、平易で読みやすく心に響く文章にまとめる。なお、文書にまとめる際には、現実感を伴った記述とするため、体験した場所の現在の住所を必ず記載する。

③文章にまとめられた体験談をそれぞれの災害の専門家（理系・工学系）に監修していただき、簡単な（200 字程度）コメントをいただく（小冊子の取りまとめ担当）

④「体験集」の分量については、1 体験談につきイラスト付で見開き 2 ページとし、火山（2～3）、地震（4～5）、風水害・火災（2～3）の 10 程度の体験談、全体で 20 ページ程度を想定。

＊内閣府作成の「一日前プロジェクト」パンフレットを参照

【スケジュール（案）】

〇災害教訓の継承に関する専門調査会（第 15 回）に「体験集」の作成について報告

1 月中、体験談選定完了

3 月中、体験談の原稿完成

平成 23 年度、内閣府で体験談に付加するイラストを発注

イラスト・原稿を合わせて冊子作成